

櫻松  
本印

大工番近極意之切紙

櫻松  
本印

先木屋、七重注、沅連張、引淨衣ヲ

著之烏帽子ヲ著之新敷物ヲ履

能々精進ヲ而可入天津見屋根ニ

御尊ノ子孫至極之義ヲ築屋中

之木ノ字見屋下云字ヲ傳ルニ是則余

之深秘之間木ノ字ヲ置之是極々秘

之ト大下云天津見屋根ノ尊ノ

子孫大神ニ神トテ二人御座ス神

代終テ後人王三十二代用明天皇者

明天皇ノ御宇大和国宇多郡四天

玉ヲ作り玉ヲ之又大神ニ神ノ子孫ト

ヨリ以來相續テ彼処ヲ傳ルル之尔時

大神ニ神ノ頭字ヲ取テ番近ト云之

故ニ番近ト云テ津カイタノムト誦之

大工番近極意之大意

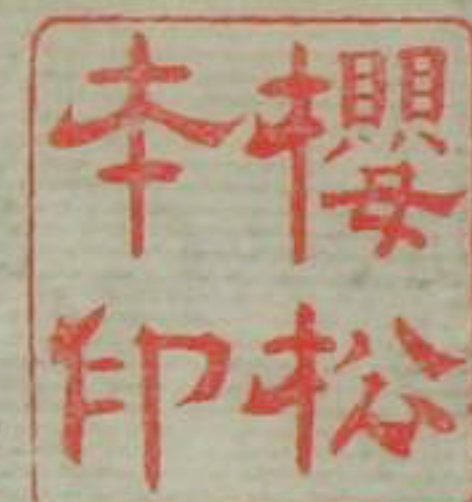
先法畧定印

光明真言

合掌ノ

諸行無常

是生滅法



大工番近極意之切紙



先木屋ハ七重ニ注沅連ヲ引張淨夜ヲ

着ニ烏帽子子ヲ着ニ新敷物ヲ履

能々精進ヲ而可入天津見屋根

御尊ノ子孫至極之美哉彼処以木屋中

之木ノ字見屋下云字ヲ傳ル之是則奈

ニ深秘之間木ノ字ヲ置之是極々秘

変之天下云天津見屋根ノ尊ノ

子孫ニ大神ニ神トテ二人御座ス神

代終テ後人王三十二代用明天皇者

明天皇ノ御宇大和国宇多郡四天

王ヲ作り玉フ之又大神ニ神ノ子孫支

ヨリ以來相續テ彼処ヲ傳ル之尔時

大神ニ神ノ頭字ヲ取テ番近ト云之

故ニ番近ト云テ津カイタノムト誦之

大工番近極意之大支

先法畧定印

光明真言

合掌ノ

諸行無常 是生滅法

大工番近極意之大吏

先法界定印

光明真言

合掌

諸行無常 是生滅法

生滅々々 寂滅為樂

般若

響りるの

しれりるの

時々々々

くろくろの

月も何んぞ

口傳曰奈良大佐兵衛尉朝清相傳

木屋ノ大吏

先護身法

世新の

天地日月

南無金剛薩埵

釋迦藥師

アミツキ

アミツキ

神々の神

まじりませ

あまの

神の御ちや

梵音光

引リ字ジ光クワ 引リ字ジ光クワ

神カミ之ノ神カミ

きさせめせ

あさせめ

神カミのノぬちチやヤも

鈔シヨウ大ダイ変ヘン

本地觀世音菩薩

向木

重ジュウ恭キョウ印イン

改カク務ムとト指サシとト洵ジュン結ケツ——右ミドリ上ウヘ——て

内ウチのノ水ミヅ環ツル環ツル

音ネ ササララ〜ハハササララトトフフククワワワワカ

衆シュウ怨オン悉シツ退タイ散サン

如ニ意イ觀カン世セ音オン

梵バン音オン海カイ潮シュウ音オン

勝ショウ波ハ世セ界カイ音オン

坪ヒラ之ノ大ダイ変ヘン

先セン智チ拳ケン印イン

引リ字ジ光クワ 引リ字ジ光クワ

獨ドク古コ印イン

ハハササララカカトトウウハハニ

先智拳  
明也元遠  
乳白と灰の  
次

獨古印

ハサラカトウハニ  
アサキヨク

あを形しき墨にぬりて祝の墨

と搦べし搦射し祝をぬき水

ハ是此物沈の大池の如きある

墨、隆巖三味之硯墨搦よ

河びとらげんむさしと  
アビラバサラタト  
搦本字の別物なり

墨指之大麦

本地文珠井

大釣石印

あん河らむやのみ

乳花ト三遍

今此三異皆是 我有其中記

生悉是吾子 ト習ふ

鉢之大麦

本地地藏芥

大光之平

あんかかかひよこまのソワカ

鉢之大麦

本地地藏芥

大光之布

あしかがひよこまのソワカ

抄之大麦

本地不動明王

根本布

あしひり〜まの〜

ナウニグサニ  
ヤダメケニ  
おキおキソワダ  
タラタアボ  
オセニタニカ  
ロウニメラ  
タカニシ

普布

あしサも心の伝

まがせり

あしあしあし

心も海

鎮之大麦

本地河絲院仏

河院

あしあしあし〜

一見屋布

糸

右之大指

その後坪を返括

糸を調心

おん...  
か...  
...

一見屋...  
...

炎キリ  
...

右之大指...  
...

その後...  
...

歌

多手...  
...

...

...

申の...  
...

...

細二箱之大事

本地社...  
...

宝藏之印法界 定不

...

...

普不ホサツ

諸佛...  
...

現當...  
...

新始...  
...

先供物...  
...

鯉一 錢散供

...

...

新始之大変

先供物 瓶子二双

鯉一捕

錢散供

その御福至の心任に任るあり

先護身法

次

獅子の事

まやてい ちんぎやてい  
ちんぎやてい ちんぎやてい  
ちんぎやてい ちんぎやてい  
卯獅子の事

おん福至の事

まやてい

次

小三古下にて加持せよ

ホロ

カシ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

ニ

おん福至の事

おん福至の事

おん福至の事

石段之大変

護身法

聞神の方へ始願道とある

聞神ト其日ヨリ九ツメノ一

不至下

南無平等大會地神主

天照大神

四天王

おん福至の事



不至不

聞神ト其日ヨリ九ツメノ一

南無平等大會地神主

天照大神 四天王

あんきり〜せんごり

ひんぎり〜あ

氷元 合掌して天地和合

諸難諸神遁ゆ影向

皆令成就

枕立柱〜

春三月 辰巳之方

夏三月 戌亥之方

秋三月 丑寅之方

冬三月 未申之方

枕立之月阿深〜

綱半二 枕立之月二 西六八

三月之半二 正三五七九十月

枕立之月〜

二月二 六ツ目

三月二 七ツ目

四月二 八ツ目

五月二 九ツ目

六月二 十ツ目

七月二 十一ツ目

八月二 十二ツ目

九月二 十三ツ目

十月二 十四ツ目

十一月二 十五ツ目

枝之系先ノ方

二月	二月	三月	三月	四月	四月	五月	五月	六月	六月	七月	七月	八月	八月	九月	九月	十月	十月	十一月	十一月	十二月	十二月
日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日	日
六ツ目	七ツ目	八ツ目	九ツ目	十ツ目	十一ツ目	十二ツ目	一ツ目	二ツ目	三ツ目	四ツ目	五ツ目	六ツ目	七ツ目	八ツ目	九ツ目	十ツ目	十一ツ目	十二ツ目	一ツ目	二ツ目	

先護身法

内傳系

飯命天

地結系

飯命天

地結系

飯命天

次考ありて

南無天帝神増長

廣目多門持國普賢

集會皆集觀向

次而手ヲ以テ敬供を祈

あんたむてんきり

ほしちしきやまわ



無

如此

龍伏之概書テ



榮華之室守護 曰天日  
南無邊云 況在 末也 法仙  
善哉 法世の母也 虛空之蓮  
華 荒中 名譽 女心 法淨 波 結 響  
為孔 法と云

真言三三三 三三三 三三三  
オシバ ガラ タ、おタソカ  
オシバ、オシバの三世の

代々々々  
ひいひい  
ひいひい

佛の心  
佛の心  
佛の心

護身法 外傳之印

あんさくしんざんざんざん  
そりり

獨古印

金銀七宝瓔珞幡蓋

天人集會悉地成就

合掌の

あつ代の子代

八子代

はらへん

あつ代

苔 苔のむら

八萬寶藏宿積道於

現當栄花二世成就

修理之大変

護身法

物法物

苔 苔のむくま

八萬寶藏宿積直於  
現當栄花二世成就

修理之大変

護身法

指法指り

あん何ふり  
うんそり

印傳し二既

宝形印

あんとはしり  
カ  
カ

合掌ニ病即消滅

不老不死但聞妙法

審地成就

悉

たしとれ字の

流の舟とあつて

得るもの

るを目おられ

幣帛切之大変

大ニ沐浴して身体法淨に書板

串ゆか物してあつ神の勢代

神の甲乙の神をとりが板を移り

とを念ふて編ま

此板を

あつて

あつて



金書

女を修

女を修む

和志の修む

まな

右女が修む切もの

切もの

立紙 鏡 扇子 麻糸

白帷子 かもぶ 帯 櫛

針 毛抜 紅粉

白粉 ぬり

右の女が修む切もの

切もの

棟上条時樾并大夏

先大工棟梁油浸

清浄し浄衣

冠てち麻

礼を

我昔所造諸悪業皆由

無始貪嗔癡從身語意

之所生一切我今皆懺悔

三返修む此趣

修む

婦身白

護身法 五右印

之所生一切我今皆懺悔

三返懺悔之智此趣き常こんりけ

悔きこころ

娑身正三

護身法

五古印

門書下

阿ひ下えけん

五古印

きりりたきり

門書下

きりりたきり

念書

南無佛陀耶南無多羅摩耶

南無僧伽耶南無飯依佛南無

飯衣僧南無佛陀教主釋迦南無

三寶守護四天王南無三世諸佛

諸井諸世界如上虚空如蓮華

不寂水心清淨波杳首禮無

念書

たぎるていそわり

申勢をぬり再ねくと浪き

をとりの載き波まを解と四方の

層ねるるけあろうし申勢を

極をとりの極をて念書

迷故三界城

悟故十方空

本來無東西

何處有南北

懺をぬり申すて念書



悟故十方空  
本來無東西  
何處有南北

懺をもめて悔の中より歩て念申  
懺のうゑて再懺くと順き返すし  
をさうく懺をも念を念ましして

一切目皆善一切宿皆皆堅  
諸佛皆皆法

懺をもめて悔したるのちより歩て  
念申懺をもめて再懺くと順  
き返すしをさうく懺をも念  
念ましして

護富求積貴官位

七寶如意行來

懺をもめて悔したるのちも  
一り念て念ましして

おもひの世の

代りて

おもひの世の

懺をもめて

此懺をもめて六つ歩て懺をも納め

念ましして虚空を念ましして

歩て念て懺をも念ましして

よ云譯して床を下り次家の

内にて懺をも念ましして

自ある院の用ある

佛（？）をるる

此歌を誦て六つ赤て櫛を納ふ  
念堂（？）をくく虚室を之を礼して  
而して三故夫を勝を回るるす  
よ云詳しとて床を下り次家の  
内にて三故夫の糸織末を納く  
目ある花袋酒をさるる

棟上糸支度ノ大支

一摺板新装 一紙を束

一小刀日 一鏡土板新装

一串六本  
三本 一帯少節

一立（？）あめり 一扇子あめり

一かし（？）あめり新装 一麻あめり

一毛（？）あめり 一はきあめり

一わ（？）あめり 一櫛あめり

一白新 一紅新

一并（？）あめり十枚 一針一本

一白（？）あめり 一白帷子

一足附あめり女 一七（？）十

一六（？）二枚 一布一疋

一指一疋 一捲糸

一瓶子双 一赤飯

一散供  
是ヲカク  
切て丹ナク 一三（？）但

一弓一（？） 一柳（？）

一 六十二枚

一 布一疋

一 絹一疋

一 挽糸

一 靴子双

一 赤飯

一 敬供 是ヨリカク  
切て丹サク

一 三枚 但

一 弓一張

一 柳葉子 一矢

一 太刀

一 長刀

一 鏡

一 ござ二枚

一 小桶 ちり

一 菓子 時の  
味

一 五穀 大豆小豆  
能く煮て用

一 燦 日の敷  
三幸 月の敷 十一 国  
五 十三

一 七曜 七り

一 九曜 九り

一 天竺八宿 ハ

一 地三十六 廿六

一 五土神 ハ

一 家内法神 九

一 當山法守 ツ

一 書 本

一 當年星本命星  
皇本合星元夜星燦敷於合記る半

福こそ外重 注 栴梨とあはれ次方  
里敷 五斗

屋鋪守護神 知事

東方天厄神 ●

惣神あり

西方多和 厄 神 ○

吉神あり

南方祖害神 ●

惣神あり

北方大黒神 ○

吉神あり

丑寅四維殺神 ●

惣神あり

辰巳三障神 ●

惣神あり

四角の神

屋鋪守護神ヲ知事

東方天厄神 ● 惣神あり

西方多和<sup>厄</sup>神 ○ 吉神あり

南方祖害神 ● 惣神あり

北方大黒神 ○ 吉神あり

丑寅四維殺神 ● 惣神あり

辰巳三障神 ● 惣神あり

未申<sup>敵</sup>觀喜神 ○ 吉神あり

戌亥宇賀神 ○ 吉神あり

是ハ神威徳ありテ屋ヲ可造物ニ

一 屋敷の性をいふ事

西より東は 木姓

北より南は 火姓

東より西は 金姓

南より北は 水姓

四方位中の生じ地と云て

ふ縁起あり

一 四神よき地の地をいふ事

東に川をきし時、柳九木植ふ

南に河をきし時、桐七木植ふ

是第雀と云

西に大道をきし時、梅八木植ふ

北に高き山をきし時、榎十木植ふ

是高き山と云

山神腹言

正月庚 二月申 三月己

水之宮の正時人穂ふむ穂ふ  
是さ高の云

山神腹立日

正月庚 二月申 三月己  
四月亥 五月未 六月辰  
七月戌 八月子 九月午  
十月卯 十一月酉 十二月丑

木之宮立日

正辰二丑三戌 四未 五辰 六丑七戌  
八未 九辰十丑十一戌十二未

山之宮立日

大 土の宮立日  
小 土の宮立日

土の宮立日

大 一日五日  
小 十三日

杭立日

春三月八辰己 夏三月八戌亥  
秋三月八丑寅 冬三月八未申

天老大被勾陳令貴大德

勢伏杭立の御事

春三月八頭三酉腹一南辰  
足四東背一  
夏三月八頭三東腹一小戌

足四西背二南

秋三月八頭三腹一東子丑足四北背二西

冬三月八頭三北腹一西申

足四南北背二東

足四西背二南

秋三月ハ頭三腹一東子丑足四北背二西

冬三月ハ頭三北腹二西申未

足四南背二東

右ハ大聖文殊の曰はた地底の底一川の

大蛇よりある頭三杭子立時ハ父母死ス

母死ス死スハある足三杭子立時ハ奉属

死スハ北月杭子立時ハ妻子自己死

死ス若腹三杭子立時ハ福ふ来

七娘ふとて思ふ子孫絶つといふ

おま内お徳成るるこのこ

故三杭子立時ハ腹背頭足

守宅神妻ヲ徳家女と云兩人の子

女人より其を名天老大彼勾陳念費

大徳此名ヲ虫て石ノ下杭の穴に入

亦も入し埋

大木定日

○卯のハ日

●酉のハ夜

○巳のハ日

○未のハ夜

○申のハ日

○酉のハ夜

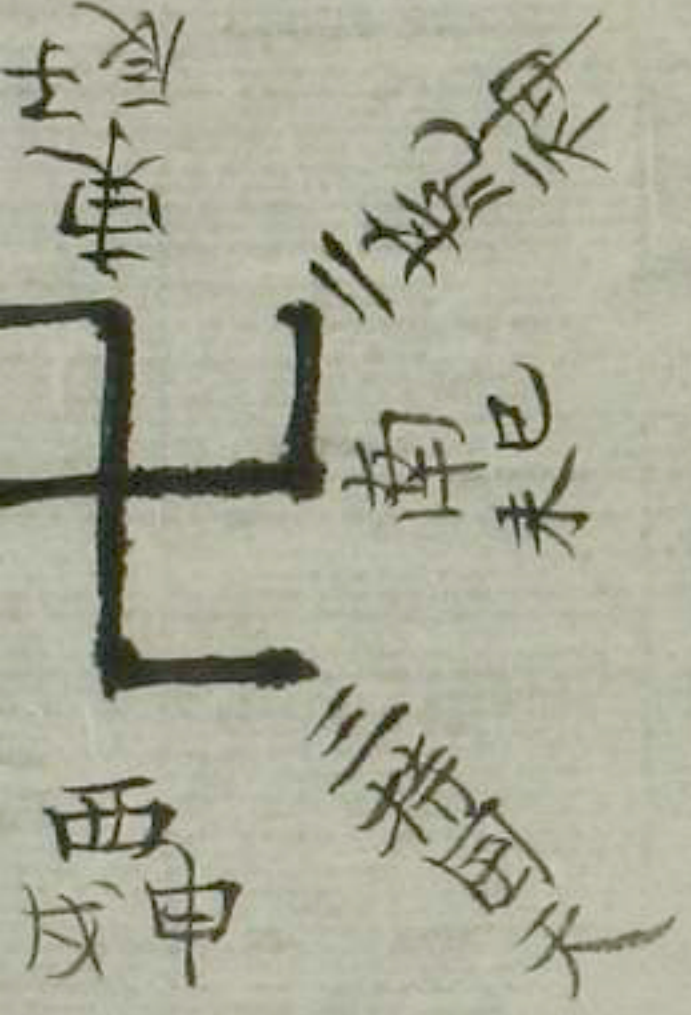
○戌のハ日

○亥のハ夜

○子のハ日

母の時より  
年の時よ  
未の時よ  
子の時よ

女はより



○ 十のハ 夜  
○ 十のハ 夜

廿五のり



如此書テ杭の下に納メ  
心徑五事可誦ス

- 一 糸又天呪 イテ あんそんそんそわていそわら
- 一 昆妙天呪 あんそんそんそわら
- 一 甚那那呪 あんけんいんいんそわら
- 一 四天王呪 あんそんそんそわら
- 一 持国天呪 あんひりちんそわら

右の呪極遍可留

條酒より矢常しく尺第

二天并天ホハ宿  
三天并地ニナシ合

是の如神も意乃地公時ハ本ノ柳  
九中南ノ柄七中西ノ柄ハ本ノ槐六  
中可一極

右之一卷ハ南都審近佐兵衛尉  
朝清己未相傳之秘書之根リ  
他云不可有折云テ神明可秘深  
者也

明治二己巳年

八日朝皇女

朝清已来相傳之秘書之存  
他云不可有折云神明可秘深  
者也

明治二己巳年

八月朔日字之

あつたのこり

あつたのこり北宮のあつたのこり備(こ)煉  
居れ東辰(西)を成(ま)る(丑)寅  
腰足腫物未申始(長)治(化)病  
南(あ)る(者)